

平成26年度 事務事業評価シート

事務事業名		江戸下町伝統工芸の振興				所管	文化産業観光部 産業振興課		
事務事業の概要	行政計画	あり	事業NO.	20	計画事業名	江戸下町伝統工芸の振興			
	長期総合計画体系	[基本目標] I-1. 産業の活性化					事業の開始・終了年度		
		[小 柱] (2) 地域経済の活性化					[事業開始] 平成 9 年度		
		[施策] ② 伝統産業の振興[8]					[終了予定] - 年度		
	根拠法令等	条例・規則	[法令等名]	東京都台東区立江戸下町伝統工芸館条例、施行規則					
	事業対象	一般区民、観光客、修学旅行者等							
	事業目的	江戸下町伝統工芸館の運営を通じ、伝統工芸の保存・普及・販路拡大・後継者育成を図り、伝統工芸産業の振興と育成に寄与する。							
事業内容	①江戸下町伝統工芸館の運営 ②江戸下町伝統工芸館での常設展示 ③江戸下町伝統工芸館での催し開催 ・毎週土、日曜日の実演 ・特別展(年2回) ・伝統工芸品集合展(年2回) ・手づくり教室(年3業種、延6回)		④台東区の伝統工芸職人展(東京国立博物館)(年1回) ⑤都庁・他市区町村(港区、つくば市)での実演・販売 ⑥国立科学博物館でのものづくり教室(対象:小中学生・年2回、一般・年1回) ⑦伝統工芸教室(区内小中学校対象) ⑧伝統工芸のビデオ視聴及び貸出し						
委託の有無	一部委託	委託内容	運営業務等委託(受付業務・清掃業務)(民間業者) 事業運営委託(職人団体)						
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種 別	指標の名称	(単位)	目標値 (27年度)	23年度	24年度	25年度		
	活動指標	江戸下町伝統工芸館入館者数	(人)	140,000	115,643	123,237	126,391		
	成果指標								
	決算額	(単位:千円)				14,652	14,555	13,852	
	事務事業コスト	(単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			12,601	11,662	11,930	
			物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			14,602	14,505	13,803	
			その他のコスト(扶助費・補助費など)			50	50	50	
			総経費			27,253	26,217	25,783	
	財源項目	(単位:千円)	受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			0	0	20	
			その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0	0	0	
一般財源(区負担額)				27,253	26,217	25,763			
前年度から改善した事項	江戸下町伝統工芸館の展示品の業種名について、作品札に英訳を加え、年々増加している外国人の来館者が、日本の伝統工芸品の内容を理解し、少しでも楽しんでいただけるように展示方法の改善に努めた。								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	3	生活様式の変化に伴う伝統工芸の認知度の低下や、後継者不足が深刻な中、誰もが気軽に多種多様な伝統工芸に親しむことはできる工芸館の役割は極めて大きい。工芸館外においても、実演や体験教室などを行い、広くPRに努めており、技術の継承・振興につなげていくために必要な事業である。						
	効率性	3	工芸館の展示品の作品札を、英訳を含め、外注委託はせずに職員で作成するなど、コストは抑えつつ、展示方法を充実させることに努めた。また、工芸館外での事業においても、実演台は区の備品を使用するなど、経費の削減を図っている。						
	手段の適切性	3	実際に職人による実演を見たり、ものづくりを体験することで、興味はより深まる。そのため、職人と連携し、工芸館内や、区内外の催しにおいて、数多くの実演や体験教室を実施しており、伝統工芸産業の振興と育成という目的を達成するために適切な手段である。						
	目的達成度	4	工芸館の入館者数は、東日本大震災による観光客の減少により一時落ち込んだが、着実に回復している。実演や企画展など、様々なPRを地道に数多く行うことで、目標値を上回る成果につなげることができた。						
[評価の理由](区民生活への影響を十分考慮すること)						評価結果	今後の方向性		
伝統工芸の保存・普及のため、工芸館でのPRや体験、区内外の実演等を通じて、引き継ぎ、伝統工芸産業の振興と育成に取り組む。							維持		
							拡大改善 維持 縮小 廃止・終了		